

## ヒンガンの旅



1. クリドゥール(Kuldur)付近のタイガ。遠景にKuldurブルーサイト鉱山の白いずりが見える。このMg鉱床は、先カンブリア紀(原生代末)の地層に含まれるマグネサイト層が古生代の花崗岩の貫入を受けてできたと考えられる。

ハバロフスクから西に向かうシベリア鉄道は、アムール川を渡って3時間ほど、湿地帯の広がる低地を走る。ユダヤ人自治州の州都ビロビジャンを過ぎる辺りから、列車はタイガにおおわれたなだらかな山並の連なる地域に入っていく。ブレヤ(Bureya)山脈南西端のヒンガン(Khingán)山脈である。どこまでも続くベリョーザ(白樺)の原生林は、紅葉の始まる9月下旬に特に美しく、すらりと伸びた幹が秋の光にまぶしい。

この地域には、ブレヤ地塊の上に噴出した後期白亜紀の流紋岩類が広く分布し、これに伴って多数の錫鉱床が産する。基盤の先カンブリア界-古生界にはFe-Mn層状鉱床や石墨・ブルーサイト(Mg(OH)<sub>2</sub>)・石灰石・ドロマイトなどの鉱床も産するが、開発はシベリア鉄道沿線に限られ、湿地帯に阻まれて大半は未着手のまま残されている。これらの開発と共に、原生の状態が保たれたタイガと多様な動物の棲息地である湿地帯を自然保護区に指定することが検討されている。

(地質調査所 鉱物資源部 佐藤興平)



2. Kuldur サナトリウム付近の典型的な民家。周辺には古生代の花崗岩(帯磁率 $<0.2 \times 10^{-3}$ SI)が露出。



3. シベリア鉄道の駅オブルーチェ(Obluchye)。ここから先はアムール州に入る。日本海岸から600km余り内陸に入ったこの辺りも、広大なロシアの大地のほんの入口にすぎない。背景の丘は後期白亜紀の流紋岩質火山岩。オブルーチェの北東15kmには、この地域最大の錫鉱山Khingánがある。